

令和7年度 クラーク記念国際高校 職員研修 報告書

令和7年4月24日（火）15:15～16:10

講師：「ぼちぼちの会」会長 木村 素也

講演：『「教員としての心得」と「指導者から支援者へ」』

令和7年4月24日（木）15時15分からクラーク記念国際高校の福岡キャンパス3階ホールで研修会が実施されました。これは九州地区総会内でのセミナーとしての実施でした。講師は私「ぼちぼちの会」会長の木村素也でした。当日は吉田校長・北川副校長をはじめ、九州地区内の約60名の先生方が参加されました。

初めに「教師としての基本的なスタンス」として「支援者と指導者の違い」について話しさせていただきました。とくに、通信制高校の生徒の特長的な部分に対する配慮事項など触れさせていただきました。必ずしも教師の考えがすべて正しいとは言えないこと絵の自覚があるか。（挫折経験のある生徒ほどそう思っている）まずは教師側からの配慮などその特性を自覚することの大切さを指摘しています。教師の立場が生徒から見てどのように映っているのかに気を付けて行動することも必要です。まずは、子どもの気持ちを大切にすること。何を考えているかは生徒の気持ちに立って考えること。そして、それは生徒の観察を通してつかむことの重要性です。教師の一番の仕事は、生徒が自分の道を自分で選択できるように支援すること。生徒の自己決定能力を高めることだと思います。教師として、生徒にどのような力を育てるのか・何を支援するのかを明確にする必要もあるのではないのでしょうか。先生方に大いに期待しています。今後もよろしくお願いします。

先生方の感想（一部抜粋）

- ・「不登校生のための学校ではない」不登校だったから、という視点で生徒の可能性を狭めていないか、内省した。
- ・コーチング研修で学んでいることでも切り口を変えて聞くと、日々の実践のなかでは指導をしていることも多いと思い当たった。
- ・「どちらの道が正解か、ではない。選んだ道を正解にする」生徒に伝えるとともに、わたし自身もそうある姿を生徒に見せていきたい。
- ・出来ることは自分でさせ、出来ることを自分で決める。自分で判断する力を育むことが自尊感情・モチベーションに繋がる。
- ・必ずしもアドバイスを求めているのではなく共感と理解を求めている。
- ・「できないことをできるようにする」のではなく、生徒が自分でできるようになりたいと求めてきたときに応じる（押し付けない）
- ・他人との比較ではなく、自分自身と比較する ・生徒が何を求めているかを理解する

